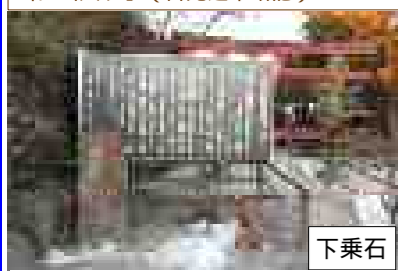
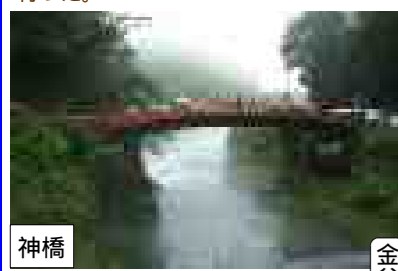


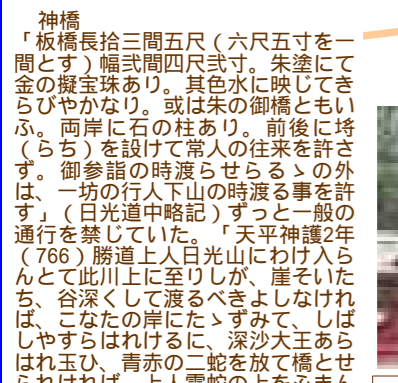
日光橋
「大谷川に渡す。板橋長さ拾貳間四尺、幅二間三尺。往來の人馬これを渡りて御山に出入す」(日光道中略記)



下乗石
鉢石宿と神橋の間の小広場の傍らに「下乗」と刻まれた下乗石がある。ここから先は日光の霊域であるため、参詣者はここで馬や駕籠といった乗り物から降りた。将軍も例外ではなく徒歩で山内へ行った。



神橋
「板橋長拾三間五尺(六尺五寸を一問とす)幅式間四尺式寸。朱塗にて金の擬宝珠あり。其色水に映てきらびやかなり。或は朱の御橋ともいふ。兩岸に石の柱あり。前後に埜(らち)を設けて常人の往來を許さず。御参詣の時渡らせらるゝの外は、一坊の行人下山の時渡るを許す」(日光道中略記)ずっと一般の通行を禁じていた。「天平神護2年(766)勝道上人日光山にわけ入るとて此川上に至りしが、崖そいたち、谷深くして渡るべきよしなければ、こなたの岸にたゞすみて、しばしやすらはれるに、深沙大王あらはれ玉ひ、青赤の二蛇を放て橋とせられければ、上人霊蛇の上をふまんことおそれありとて、草かの翁をまねき、山管をからせ、これを蛇跡におぼひて渡られけり。大同3年(808)上人其跡に橋を作り、山管の橋と名づく」(日光道中略記)寛永13年(1636)に東照宮の造営が終わったとき、以前からあった山管橋を架け替えて今の形の橋とし、名も神橋と改めた。依頼、16年ごとに架け替えられてきたが、今の橋は明治37年(1904)に架け替えられたもの。



日光東照宮
26 日光東照宮
寛永17年(1640)に天海大僧正により今の御幸町に移転させられている。また、明治初期まで中央に水路があった。

27 日光奉行所
大猷院守守護職を務めた梶定良の屋敷を改築し、元禄13年(1700)日光奉行所が設けられた。奉行所内には、米蔵やお白州もあったという。明治2年(1869)に設置された日光興行の庁舎となり、明治4年(1871)の第一次府県統合により栃木県に統合され、取り壊された。その跡地には日光ホテルが建てられたが、大正15年(1926)に火災により焼失した。

星宮神社(磐裂神社 いわさくじんじや)「いにしへ(勝道)上人開山のみぎり、山管橋のほとりたゞすみし時(虚空増菩薩)童子とあらはれ、種々の奇瑞(きずい)ありし故、其時の形を彫刻して当社に安置せり。又むかし源頼朝奥州の泰衡追討の時、此社に祈願ありと云」(日光道中略記)



28 田母沢御用邸
御用邸は、避暑・避難を目的とした皇太子の別邸で、明治から昭和にかけて各地に建設された。田母沢御用邸は、皇太子(大正天皇)のご静養の場として造営された。天皇御即位後も度々訪れ、昭和22年(1947)に廃止されるまで、大正天皇をはじめ、3代にわたる天皇、皇太子が利用された。特に、大正天皇は日光を好まれ、明治29年(1896)から大正14年(1925)までに、1千日余、日光に滞在された。第二次大戦中には、当時皇太子であった昭和天皇の疎開先となった。

29 日光真光教会礼拝堂
明治16年(1883)アメリカのJ.M. ガーディナーは立教大学を設立し、明治23年(1890)に小さな礼拝堂を建てたが、手狭なので、大正3年(1914)に現在地に礼拝堂を再建した。礼拝堂の聖書台の床下には、ガーディナーと妻フロレンスの遺骨が納められている。

30 稲荷川
二荒山神社の北から東照宮の東を流れて大谷川に合流するが、寛永2年(1662)に起きた川の氾濫で148名が溺死した。

板垣退助像
総督府参謀の板垣退助は、貴重な建築物である東照宮を焼失することを恐れ東照宮に陣を張る大鳥圭介、土方歳三、旧幕臣、会津藩士らを説得し、日光山内を戦火から救った。



22 日光山内
大谷川を境に手前が日光市街、日光橋を渡ると山内と呼び、東照宮、日光山輪王寺、日光二荒山神社、日光光廟大猷院のある一帯をいう。または、日光東照宮、日光二荒山神社と1つの寺家光大猷院を含めた日光山輪王寺のことである。

23 表参道
この一帯には民家があったが、寛永17年(1640)に天海大僧正により今の御幸町に移転させられている。また、明治初期まで中央に水路があった。

24 日光奉行所跡
大猷院守守護職を務めた梶定良の屋敷を改築し、元禄13年(1700)日光奉行所が設けられた。奉行所内には、米蔵やお白州もあったという。明治2年(1869)に設置された日光興行の庁舎となり、明治4年(1871)の第一次府県統合により栃木県に統合され、取り壊された。その跡地には日光ホテルが建てられたが、大正15年(1926)に火災により焼失した。

25 日光真光教会礼拝堂
明治16年(1883)アメリカのJ.M. ガーディナーは立教大学を設立し、明治23年(1890)に小さな礼拝堂を建てたが、手狭なので、大正3年(1914)に現在地に礼拝堂を再建した。礼拝堂の聖書台の床下には、ガーディナーと妻フロレンスの遺骨が納められている。



重要文化財日光物産
日光山開祖・勝道上人が托鉢の途中、大谷川(だいやがわ)岸のこの石に座って日光山を仰いだと伝わる。日光開山以来、旅人の道標となった。「鉢を伏せたような形状」が名の起こり、地名の由来にもなった。石の周囲に柵を設け、注連を張って神聖視され保護されてきた。

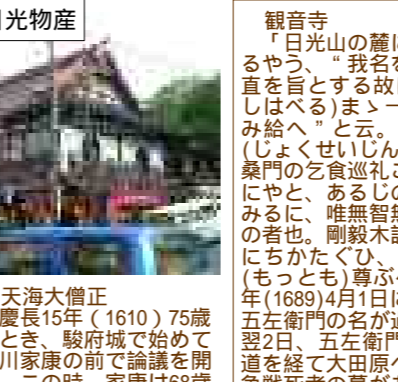
天海大僧正
慶長15年(1610)75歳のとき、駿府城で始めて徳川家康の前で論議を開き、この時、家康は68歳でしたが、天海に感銘し「もっと早く天海に逢いたかった。」といったそうです。慶長18年(1613)78歳のとき、日光山の住職になり、天海が家康に仕えたのは7年間で、その後二代將軍秀忠、三代將軍家光に秀忠、各將軍の家庭教師・政治顧問・相談役・黒衣の宰相として徳川家のために尽力した。

26 龍神神社
弘法大師が滝尾、寂光を開いた時、弟子たちが守護として京都醍醐の龍神神社を分祠したのが始まりといわれている。晴天祈願をすると晴れるということから、東照宮や二荒山神社の例大祭の時、祈晴祭が行われている。境内の狛犬は、万治元年(1658)に奉納されたもので、銘には天狗とある。

27 金谷カッター・イン
明治6年(1873)、日光を訪れたヘボン式ローマ字で有名なアメリカ人ジェームズ・カーティス・ヘップバーン(J.C. ヘボン)博士が泊まるころがなく、困っているのを見かねた金谷善一郎氏は博士を自宅に宿泊させた。その後自宅の一部を外国人専用の宿泊施設「金谷カッター・イン」を始めた。

28 田母沢御用邸
御用邸は、避暑・避難を目的とした皇太子の別邸で、明治から昭和にかけて各地に建設された。田母沢御用邸は、皇太子(大正天皇)のご静養の場として造営された。天皇御即位後も度々訪れ、昭和22年(1947)に廃止されるまで、大正天皇をはじめ、3代にわたる天皇、皇太子が利用された。特に、大正天皇は日光を好まれ、明治29年(1896)から大正14年(1925)までに、1千日余、日光に滞在された。第二次大戦中には、当時皇太子であった昭和天皇の疎開先となった。

29 稲荷川
二荒山神社の北から東照宮の東を流れて大谷川に合流するが、寛永2年(1662)に起きた川の氾濫で148名が溺死した。



天海大僧正像
慶長15年(1610)75歳のとき、駿府城で始めて徳川家康の前で論議を開き、この時、家康は68歳でしたが、天海に感銘し「もっと早く天海に逢いたかった。」といったそうです。慶長18年(1613)78歳のとき、日光山の住職になり、天海が家康に仕えたのは7年間で、その後二代將軍秀忠、三代將軍家光に秀忠、各將軍の家庭教師・政治顧問・相談役・黒衣の宰相として徳川家のために尽力した。

20 長坂
神橋の右奥に見えるのは長坂で、東照宮へこの坂を上がっていった。

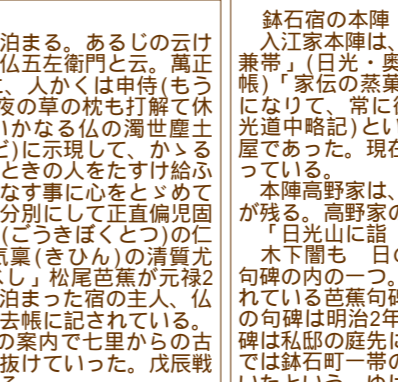
21 仙台切通
手前の道は国道119号線。下河原町への道で、かつては、岩山が迫り出し大谷川沿いを狭い道が通っていたが、江戸初期に仙台藩が伐り開き道幅を広げたという。そのため、「仙台切通」と呼ばれた。

22 日光山内
大谷川を境に手前が日光市街、日光橋を渡ると山内と呼び、東照宮、日光山輪王寺、日光二荒山神社、日光光廟大猷院のある一帯をいう。または、日光東照宮、日光二荒山神社と1つの寺家光大猷院を含めた日光山輪王寺のことである。

23 表参道
この一帯には民家があったが、寛永17年(1640)に天海大僧正により今の御幸町に移転させられている。また、明治初期まで中央に水路があった。

24 日光奉行所跡
大猷院守守護職を務めた梶定良の屋敷を改築し、元禄13年(1700)日光奉行所が設けられた。奉行所内には、米蔵やお白州もあったという。明治2年(1869)に設置された日光興行の庁舎となり、明治4年(1871)の第一次府県統合により栃木県に統合され、取り壊された。その跡地には日光ホテルが建てられたが、大正15年(1926)に火災により焼失した。

25 日光真光教会礼拝堂
明治16年(1883)アメリカのJ.M. ガーディナーは立教大学を設立し、明治23年(1890)に小さな礼拝堂を建てたが、手狭なので、大正3年(1914)に現在地に礼拝堂を再建した。礼拝堂の聖書台の床下には、ガーディナーと妻フロレンスの遺骨が納められている。



鉢石
直径2mほどの石で、日光山開祖・勝道上人が托鉢の途中、大谷川(だいやがわ)岸のこの石に座って日光山を仰いだと伝わる。日光開山以来、旅人の道標となった。「鉢を伏せたような形状」が名の起こり、地名の由来にもなった。石の周囲に柵を設け、注連を張って神聖視され保護されてきた。

26 龍神神社
弘法大師が滝尾、寂光を開いた時、弟子たちが守護として京都醍醐の龍神神社を分祠したのが始まりといわれている。晴天祈願をすると晴れるということから、東照宮や二荒山神社の例大祭の時、祈晴祭が行われている。境内の狛犬は、万治元年(1658)に奉納されたもので、銘には天狗とある。

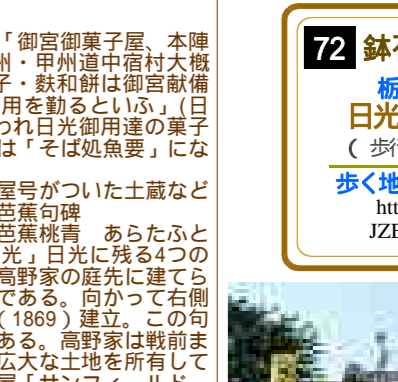
27 金谷カッター・イン
明治6年(1873)、日光を訪れたヘボン式ローマ字で有名なアメリカ人ジェームズ・カーティス・ヘップバーン(J.C. ヘボン)博士が泊まるころがなく、困っているのを見かねた金谷善一郎氏は博士を自宅に宿泊させた。その後自宅の一部を外国人専用の宿泊施設「金谷カッター・イン」を始めた。

28 田母沢御用邸
御用邸は、避暑・避難を目的とした皇太子の別邸で、明治から昭和にかけて各地に建設された。田母沢御用邸は、皇太子(大正天皇)のご静養の場として造営された。天皇御即位後も度々訪れ、昭和22年(1947)に廃止されるまで、大正天皇をはじめ、3代にわたる天皇、皇太子が利用された。特に、大正天皇は日光を好まれ、明治29年(1896)から大正14年(1925)までに、1千日余、日光に滞在された。第二次大戦中には、当時皇太子であった昭和天皇の疎開先となった。

29 稲荷川
二荒山神社の北から東照宮の東を流れて大谷川に合流するが、寛永2年(1662)に起きた川の氾濫で148名が溺死した。

30 稲荷川
二荒山神社の北から東照宮の東を流れて大谷川に合流するが、寛永2年(1662)に起きた川の氾濫で148名が溺死した。

31 日光軌道橋梁
道路と道路の間に日光軌道の橋梁が残っている。この上に線路を敷き鉄橋としていた。日光駅から清滝を經由して馬返しまで通じていた。



日光軌道架線柱
明治9年(1876)明治天皇行幸のさい、石段道路のため御馬車を使用できなかったため、明治16年(1883)石段を坂道にし、道路中央の水路部分に明治13年(1910)日光軌道の路面電車が開通。現在架線柱が残っている。

32 大谷川
大谷川を境に手前が日光市街、日光橋を渡ると山内と呼び、東照宮、日光山輪王寺、日光二荒山神社、日光光廟大猷院のある一帯をいう。または、日光東照宮、日光二荒山神社と1つの寺家光大猷院を含めた日光山輪王寺のことである。

33 稲荷川
二荒山神社の北から東照宮の東を流れて大谷川に合流するが、寛永2年(1662)に起きた川の氾濫で148名が溺死した。

34 虚空蔵
虚空蔵尊は寛永年中(1624~44)、上鉢石町の星宮磐裂神社の祭神を勧請、上・中・下鉢石町、御幸町、石屋町、松原町の鎮守。華麗な装飾の社殿が建つ。境内には樹齢350年のしだれ桜がある。近くの高田家のしだれ桜も見事である。こちらは樹齢40年といわれる。

35 虚空蔵
虚空蔵尊は寛永年中(1624~44)、上鉢石町の星宮磐裂神社の祭神を勧請、上・中・下鉢石町、御幸町、石屋町、松原町の鎮守。華麗な装飾の社殿が建つ。境内には樹齢350年のしだれ桜がある。近くの高田家のしだれ桜も見事である。こちらは樹齢40年といわれる。

36 虚空蔵
虚空蔵尊は寛永年中(1624~44)、上鉢石町の星宮磐裂神社の祭神を勧請、上・中・下鉢石町、御幸町、石屋町、松原町の鎮守。華麗な装飾の社殿が建つ。境内には樹齢350年のしだれ桜がある。近くの高田家のしだれ桜も見事である。こちらは樹齢40年といわれる。

37 虚空蔵
虚空蔵尊は寛永年中(1624~44)、上鉢石町の星宮磐裂神社の祭神を勧請、上・中・下鉢石町、御幸町、石屋町、松原町の鎮守。華麗な装飾の社殿が建つ。境内には樹齢350年のしだれ桜がある。近くの高田家のしだれ桜も見事である。こちらは樹齢40年といわれる。

72 鉢石宿 ~ 東照宮
栃木県日光市
日光駅 ~ 東照宮
(歩行距離 2319m 28分)
歩く地図でたどる日光街道
http://nikko-kaido.jp/
JZE00512@nifty.ne.jp



稲荷神社
稲荷神社 西行戻り石
「まつ木へ上りければ、西行口さきで「猿の児とおもへば早く木にのぼる」。小童「犬のやうなる法師みたれば」とついたり。西行、汝は何処へ行くぞと問ふ。小童「冬もえて夏枯草をかりにゆく」と答ふ。それは何の草ぞと問。童いはく、御身は聖智の人かな。世にあまりよく知れる藜といふ草なるを知り玉はずとて、手を打て笑ひければ、西行おどろき、かゝる賤しき小童さへ知るかきこき所なれば、山に入らんことかかふまじとて、此所より帰らる。故に西行戻り石と名づく」(日光道中略記)

虚空蔵
虚空蔵尊は寛永年中(1624~44)、上鉢石町の星宮磐裂神社の祭神を勧請、上・中・下鉢石町、御幸町、石屋町、松原町の鎮守。華麗な装飾の社殿が建つ。境内には樹齢350年のしだれ桜がある。近くの高田家のしだれ桜も見事である。こちらは樹齢40年といわれる。

虚空蔵
虚空蔵尊は寛永年中(1624~44)、上鉢石町の星宮磐裂神社の祭神を勧請、上・中・下鉢石町、御幸町、石屋町、松原町の鎮守。華麗な装飾の社殿が建つ。境内には樹齢350年のしだれ桜がある。近くの高田家のしだれ桜も見事である。こちらは樹齢40年といわれる。



日光駅
日光駅は日光市街の中心部にあり、日光東照宮や日光山開祖の石などの観光地へのアクセスが便利である。

日光市街
日光市街は日光東照宮を中心に発展し、日光山開祖の石などの観光地が点在している。